

旧尼崎城下の町「築地」に残る「築地 だんじり祭」

築地初島大神宮 **だんじり とだんじりがぶつかり合う「山あわせ」**

2013.9.16.夜 by Mutsu Nakanishi



「だんじり祭」というと街中を猛スピードで駆け抜ける「岸和田のだんじり祭」が有名であるが、河内・和泉や神戸・尼崎などにも、地域の神社の大祭にあわせて 各町内の地車(地車と書いてだんじりと読む)が引き廻され、街を練る「だんじり祭」が行われている。

私のふるさと尼崎にも 南部の旧尼崎の城下町に
今も向かい合った2基の地車がだんじり囃子に乗せて、
互いに前方部を斜めに上げあって激しくぶつかり合う
「山あわせ」が行われる荒くれの「尼崎のだんじり祭」
があり、かつての賑わいを取り戻しつつあると聞く。



かつては、「山あわせ」別名「だんじりのけんか」が
街中で繰り広げられたのですが、負傷・小競り合い
などが絶えなかったが、交通事情の変化もあって、
街中での「山あわせ」は禁止されたが、現在は厳し
いルール規制・遵守のもと、山あわせ場で演技とし
て「山あわせ」が行われている。

だんじり囃子が鳴り響く中、2台の地車が互いに
前方部を傾け、肩背棒どうしを山形に組み合って
押し合う。

そしてうまく 肩背棒を相手の肩背棒の上に寄せ、
相手の地車を制してしまうと勝負がつく。

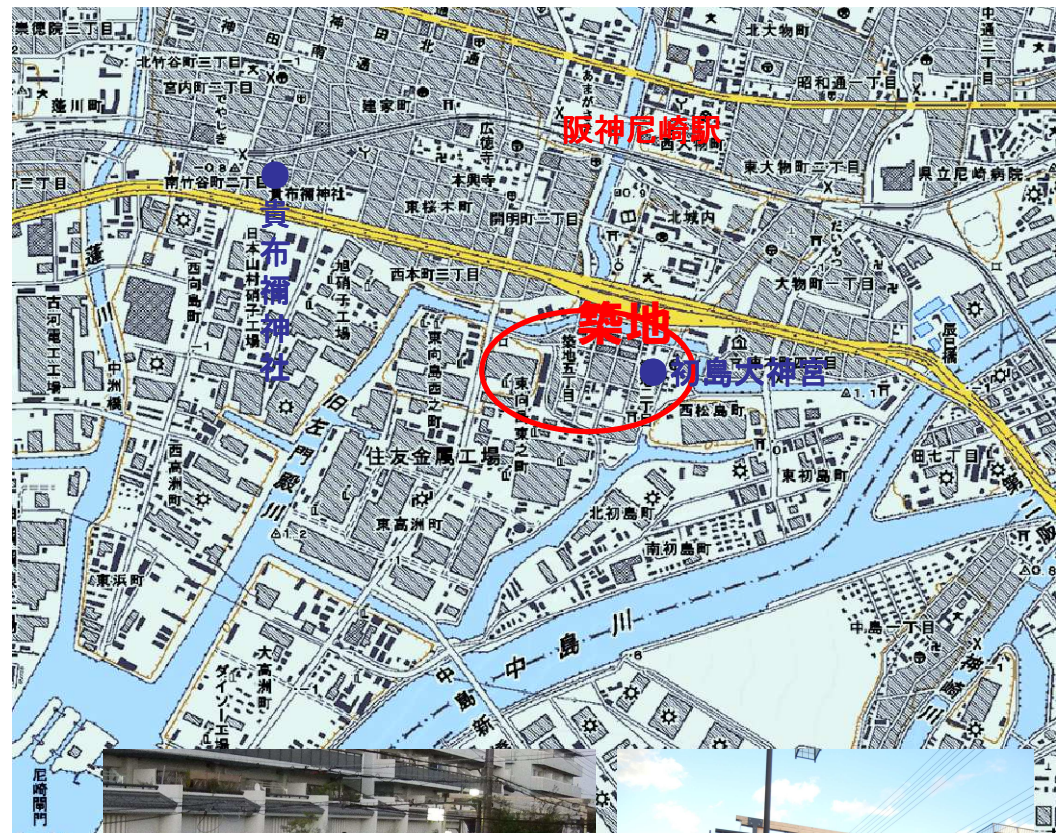


演技とはいえ、急テンポのだんじり囃子が鳴り響く
中での地車の激しいぶつかり合いに見物のひとたちも興奮して見入る迫力満点の祭である。
子供の頃には祭というとだんじり囃子にかきたてられて、この「だんじりのけんか」を見るのが楽し
みでしたが、街中での「山あわせ」が禁止され、巡行だけとなって、次第に祭見物も足が遠のいて
いましたが、あのだんじり囃子のリズムとぶつかり合う地車の姿は脳裏にくっきりと残っています。

一昨年の夏 尼崎貴布禰神社の夏祭「地車の宮入巡行」を見て、今度はぜひあの「山あわせ」を見たいと。
そんな折、築地に住む友達から「昔のだんじり祭の風情を残しているのは築地が一番。機会があれば ぜひ見においで」と声をかけてもらった。

去年はよう出かけませんでしたが、この9月16日の夕方 わくわくしながら、築地初嶋大神宮大祭「だんじり祭・山あわせ」を久しぶりに見に出かけました。

また、「築地」地区は周囲を運河で囲まれた工場地帯の一角にひっそり残るかつての城下で、今も昔の街並みが残る街。
この築地の南側 運河の向こうの向島地区の工場街は私が勤務する会社の尼崎製造所。仕事でよく通った工場街。
久しぶりに「山あわせ」が始まる前に時間がありましたので、この向島を取り囲む運河に沿って歩いてきました。



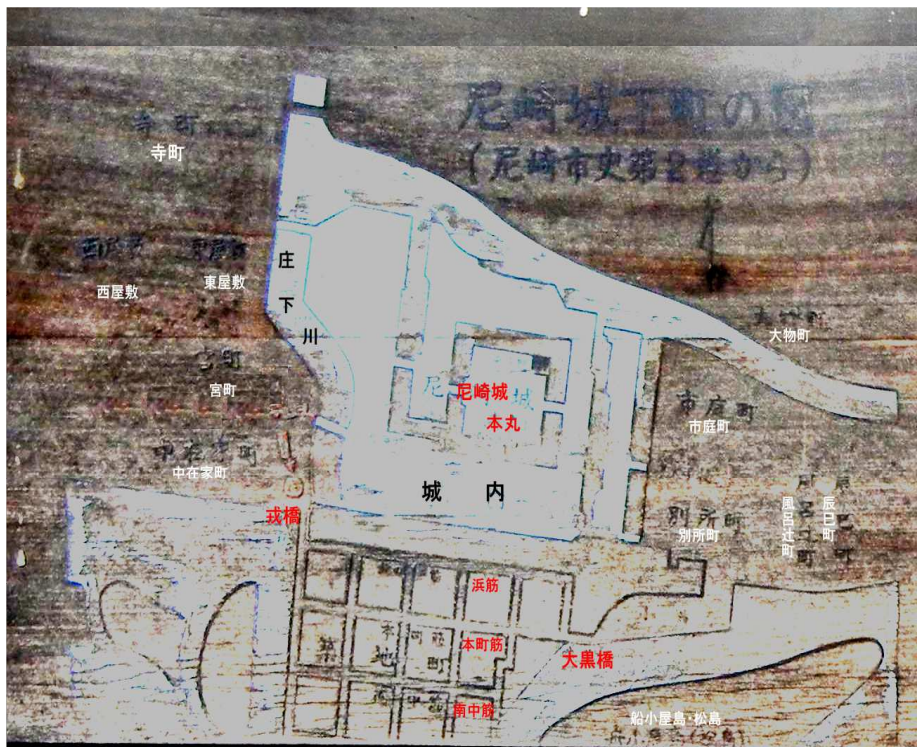
尼崎城下 築地町 案内 戎橋にある案内板より

尼崎城下 築地町の西の入口 戎橋 2013.9.16

橋の北側たもとには初嶋大神宮の石碑と尼崎城下・築地町の案内板がありました

尼崎城下・築地町

戎下・築地町



この式地の前には、尼崎城の
築地町の一六(一七)から築城
当時のままの大小二つの島が
明確ではありませんが、初代
排水溝が、次の藩主青山氏の時
に作られます。中国街道の東部は
大物町市庭町を結ぶ道筋と、大
至る道筋に分れていました。築
地町に設けられたので、廃止さ
れた北に入り、この式橋を
また、大黒橋、式橋は

堀が残されています。

れた尼崎城、その南方には、
りました。築地町の建設時期
主戸田氏の時代には町割り
になると本格的な建設が行わ
三時神崎の渡しから南下し、
次の佃島から辰巳町・別所町に
堀が始まると、本丸の南に街並
、城の東側から大黒橋を経て
、城の西側へう回するコース
に築地町の商家の商売繁栄を

願う二神から名称され、
特に築地町の南浜には
浜式社を勧請し、
現在も初島大神宮とし
て信仰厚く、祭られて
います。

葎島は東西四筋、
南北六筋の街路で基盤
型にくまられており、
一番北が浜筋、本丸筋、
その南が本町筋、中町筋、
さらに南には南中筋、
大浜筋となっています。

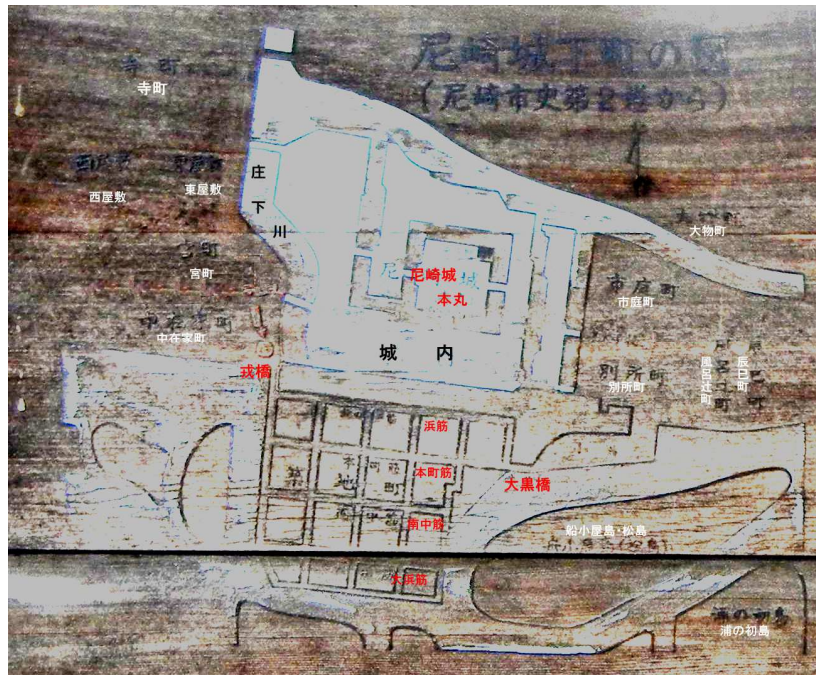
築地への西の入口 戒橋ある案内板より

「尼崎城下・築地町」

この戒橋の前には尼崎城の堀が残されています。元和3年(1617)から築城された尼崎城、その南方には当時葭(あし)の生えた大小二つの島がありました。築地町の建設時期は明確ではありませんが、初代藩主戸田氏の時代には町割りと排水溝が、次の青山氏の時代になると本格的な建設が行われています。中国街道の東部は当時神崎の渡しから南下し、大物町・市場町を経る道筋と、大阪の佃島から辰巳町・別所町に至る道筋に分かれていました。築城が始まると、本丸の南に街道が通っていましたが、廃止され、城の東側から大黒橋を経て築地町の北に入り、この戒橋を経て城の西側へ迂回するコースになりました。

大黒橋・戒橋は共に商家の商売繁栄を願う二神から名称され、特に築地の南浜には浜戎社を勧請し、現在も初嶋大神宮として信仰厚く祭られています。

葭島は東西四筋、南北六筋の街路で碁盤型に区切られており、一番北が浜筋(木屋筋)、その南が本町筋(往還筋)、さらに南には南中筋、大浜筋になっています。



第三之丸には、家老クラスの上級家臣の屋敷が連なっていました。北端にある飯橋門から対岸の侍屋敷である田町に飯橋がかけられ、東大手橋から続く大道が中国街道に繋がっていました。

1. 阪神尼崎駅から久しぶりに城内地区を通して築地へ 2013.9.16.



阪神尼崎駅の南東側 庄下川の東側に広がる城内地区 2013.9.16.

南に広がる工場の高い煙突群が見られなくなり、穴の開いたような尼崎の景色でしたが、阪神電車のレンガ倉庫の懐かしい尼崎の風景 新しい街づくり事業で、かつてのお城の城壁や遊歩道が復元整備され、今では尼崎の新しい顔のひとつになっている。

阪神尼崎駅に降り立ったのは16時45分 築地だんじり祭の「山あわせ」は18時過ぎと聞く。たっぷり時間があるので、阪神尼崎駅の東を南北に流れる庄下川の向こう南東側は、かつて尼崎城があった場所。廃城後の明治から戦後町の中心が北の方に移るまで、町役場・市役所や図書館・そして病院・学校など町の中心機能が置かれた城内地区を通して築地へ。

城内地区へは長いこと行っていないが、新しい町づくりで、高架の駅から眺める外観は美しく変化していると聞く。築地の街やその南の向島を取り巻く運河沿いも随分歩いていない。祭の前にちょっと歩いてみたい。



尼崎の景色が大きく変化する中で、変わらぬ姿にほっとする阪神尼崎車庫の倉庫 2013.9.16.



江戸の初め 西の守りとして 3重の堀に囲まれ、4層の天守閣を持つ水城があった



阪神尼崎駅南側 庄下川に面した城内地区 かつて尼崎城があり、この庄下川を伝ってそのまま海へ出られたという

尼崎城を中心とした城下 町民の町8町 そして 城西の町(中在家・宮町)そして 城南の築地町には
300年続く庶民の祭「だんじり 祭」が今も受け継がれ、続いている。



庄下川沿い、現在は中央図書館になっているが、城壁が復元された尼崎城跡 2013.9.16.



城跡公園から振り返る北側の阪神尼崎駅 今はこんなに美しいところになっているのだと
子供の頃は ここは県立尼崎病院だった 2013.9.16.





図書館の南側 開明橋のとおりに出ると昔にタイムスリップした感じ 懐かしい古い建物が並んでいる 2013.9.16.
左手の南側は本丸があった辺りである



城内高校



旧中央図書館



開明橋の通りを東に抜けると南北の広い通りにぶち当たる 2013.9.16.

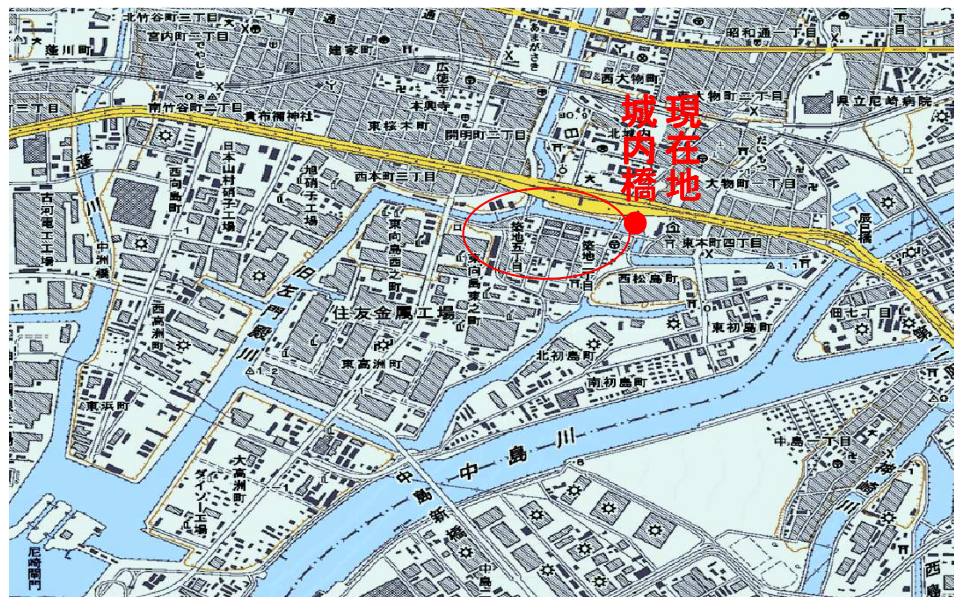
ここはかつて 国鉄尼崎駅から南へ 金楽寺を通過 築地にあった尼崎港駅まで通じていた尼崎港線の線路跡
古い列車や貨物が尼崎駅の西で東海道線越線橋を越えて走り、 確か高校生の時代まで線路が残っていました
交通体系が大きく変化した今、 南には国道43号線の高架が見え、その向こうに築地の高層住宅群が見えている



国道43号線の高架橋 この高架の向こうには庄下川河口から尼崎港を巡る運河が張りめぐらされていて、高架橋をぐり、城内橋をわたると築地。高架橋の向こうに だんじり の姿が見える 2013.9.16.



国道43号線の高架橋下 築地の街への入り口
高架橋南の運河にかけられた城内橋を渡ると築地である 2013.9.16.



阪神高速の高架をくぐると 尼崎城下 築地町への入口 城内橋 2013.9.16



築地の北側を東西に流れる水路に架かる城内橋から西側を眺める 2013.9.16.

城下町「築地」 尼崎市

築地の震災復興まちづくり



平成7年1月17日阪神・淡路大震災
この地図は、震災直後の状況を記録したもので、震災前の地図とは異なり、被災した建物の位置や、震災後の土地利用の変化などが示されています。また、震災後のまちづくりの方向性や、復興の進捗状況なども示されています。



現在の築地地区



築地の震災復興まちづくり

平成7年1月8日撮影



平成七年一月一七日、阪神・淡路大震災に伴う地盤の液状化により多大な被害を被った地区の住民は「まちづくりは住民の手で」を合い言葉に、震災復興まちづくりに取り組みました。

築地地区のまちづくりの目標は「明るく住み良い環境を保ち、災害に強い歴史文化的魅力のあるまちづくり」です。復興後も震災の記憶を忘れずに地区住民が一緒になってまちづくりに取り組んでいきます。

この写真は震災の直前、平成七年一月八日に撮影された地区の航空写真です。震災前の地区の様子がよくわかります。尚、写真の中に書き込んだ町名は震災当時のものです。

現在の築地地区





橋を渡って 街中へ入らず 運河沿いを東へ
運河の向こうに 大官町・小嶋 二つの地車が見えている





ひとつ通りを南に行くとほん町通り かつての中国街道・往還筋
通りには提灯が飾り付けられていて、西へ少し行けば初嶋大神宮

南に地車が見えるので 其処までいってからお宮さんへ



運河がカギ状に曲がる角 向こう側に 尼崎浄化センターがある広い公園の端
に本町一丁目の地車がいる ここがほぼ、築地の東端。
初嶋大神宮へお参りしようと西へ戻る



すぐ西側に細長いひろばがあり、ここが「山あわせ」が行われる松島公園
「山あわせ」は6時30分頃からと教えてもらった。
街のあちこちで 法被姿の地車の引き手の姿にであう まだ、17時 随分時間がある



「山あわせには せまいなあ」ときになりましたが、「山あわせ」では人は公園の中には入れず、公園の周囲から、見るのだという。「山あわせ」がやれるように作った公園で、公園の周囲には取り囲む柵、南側には公園を見渡せる斜面・高台になっていると友達に教えてもらいました。



公園の西端にも地車が見える 丸嶋の地車でした



この公園沿いの道をぐるりと回りこむと初嶋大神宮の正面に

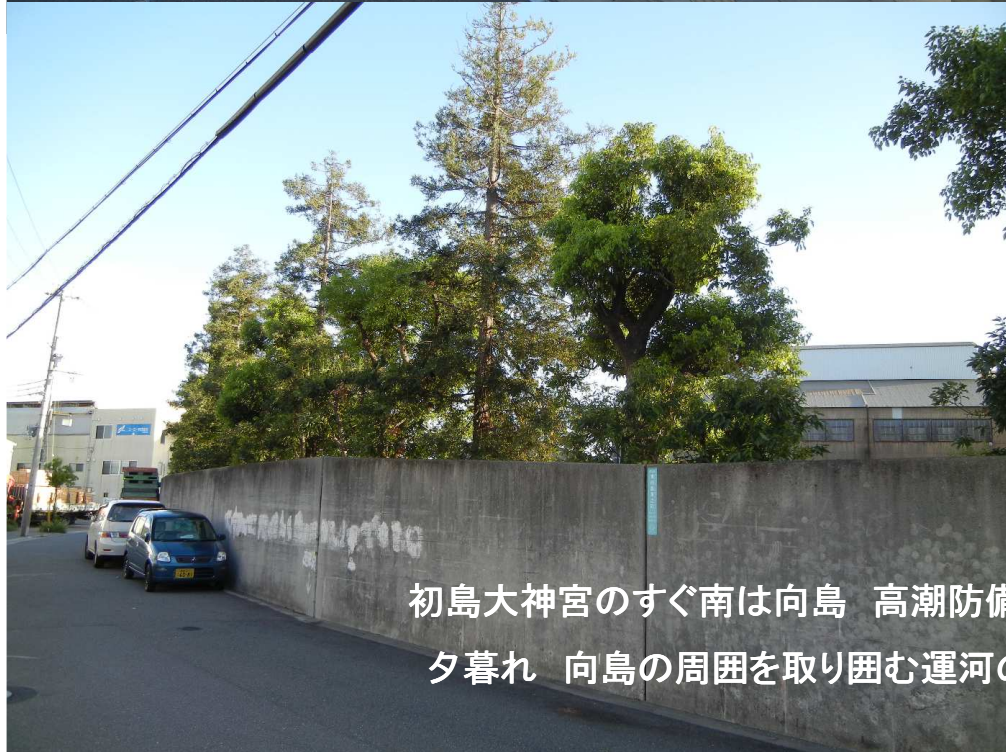
この通りが、築地の大浜筋 かつては海に面し 向かいには大小の島
が浮かぶ景勝地 「浦の初島」と呼ばれていたという。

また、鳥居の両側の常夜燈は文化年間 生魚を京都で売りさばいたり、
御所に納めていた仲買商仲間が寄進したものという



祭にしては夜店もないなあ と意外でしたが、神社の西の通りから、
本町筋にびっしり夜店が出ていました。

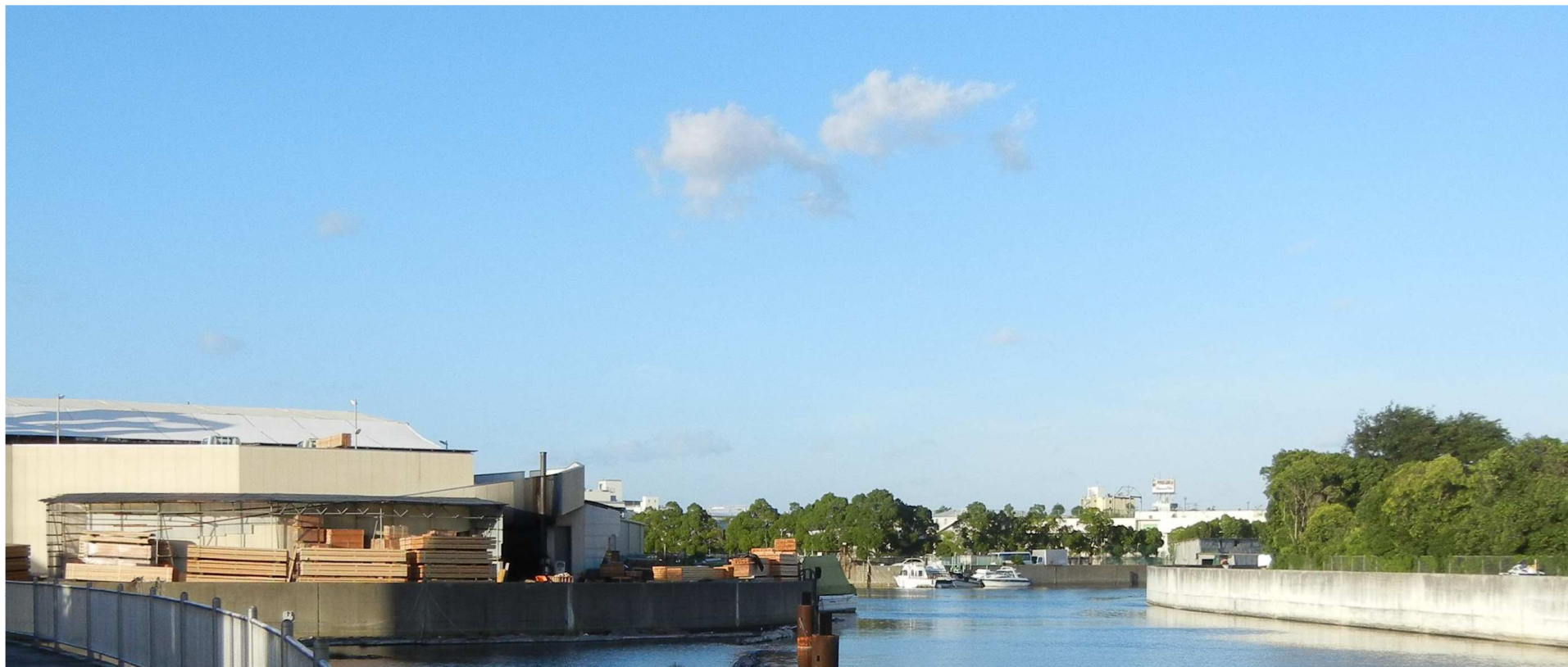
東向島工場群を巡る運河Walk
2013.9.16.夕 17:10



初島大神宮のすぐ南は向島 高潮防備の防潮堤を張り巡らせた住友鋼管
夕暮れ 向島の周囲を取り囲む運河の縁を久しぶりにぶらぶ歩きました











東向島運河沿いから中島新橋 その奥 阪神湾岸線 尼崎港に掛かる大橋 2013.9.16.



東向島運河沿いから北側の遠望 工場建屋の向こうが築地 2013.9.16.



久しぶりに見る工場内運搬車用線路 2013.9.16.

かつては長い鋼管を満載して幾台も連結した運搬車がひっきりなし
工場には「カーンカーン」と鋼管同士が接して発する甲高い音・クレーンの音など
気ある音が鳴り響いていましたが……

活



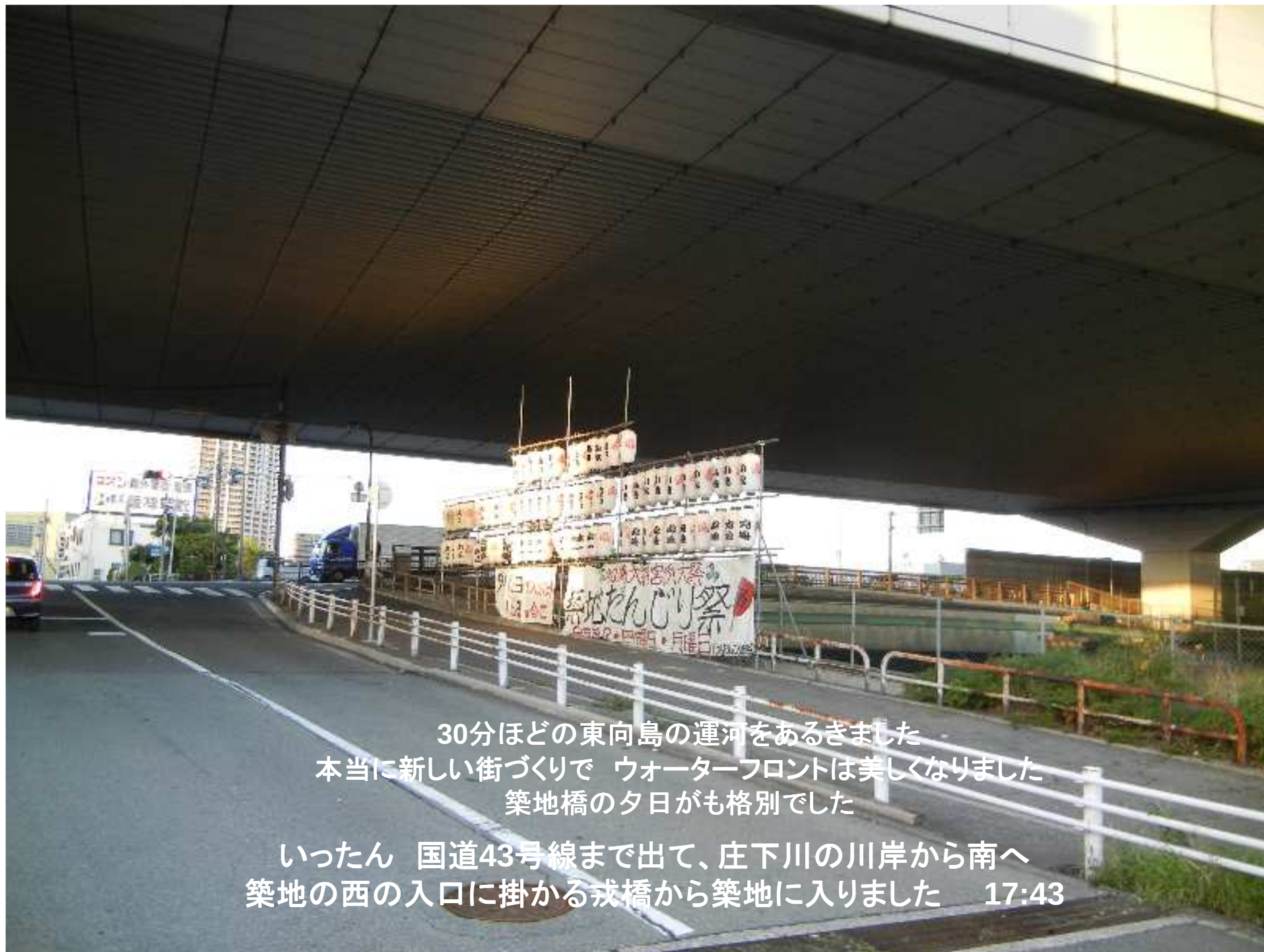


向島の真ん中を南北に尼崎港へ結ぶ五合橋線 大高洲橋の北側に出る 17:20 2013.9.16.



五合橋線を北へ 住友鋼管の工場群の中をぬけて 築地へ向かう 2013.9.16.





30分ほどの東向島の運河をあるきました
本当に新しい街づくりで ウォーターフロントは美くなりました
築地橋の夕日とも格別でした

いったん 国道43号線まで出て、庄下川の川岸から南へ
築地の西の入口に掛かる戒橋から築地に入りました 17:43



向島をぐるりと1周して、築地の西の入口 戎橋から本町通り・往還筋へ戻ると、だんじり囃子を鳴り響かせながら「山あわせ」に向かう地車が次々と東へ向かってゆく

尼崎城下 築地町の西の入口 戎橋 2013.9.16

橋の北側たもとには初嶋大神宮の石碑と尼崎城下・築地町の案内板がありました



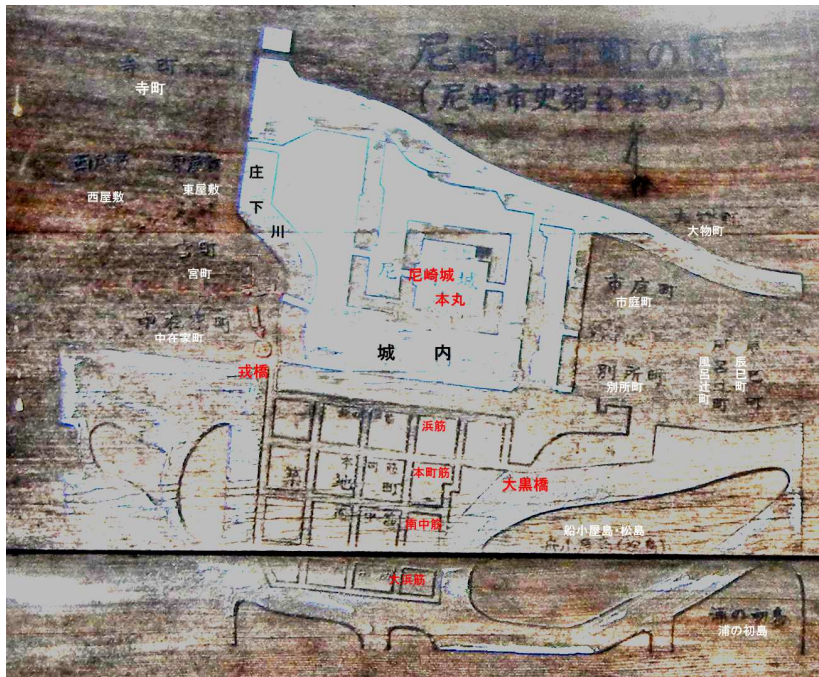
初島大神宮横ある案内板より

「尼崎城下・築地町」

この戎橋の前には尼崎城の堀が残されています。元和3年(1617)から築城された尼崎城、その南方には当時葭(あし)の生えた大小二つの島がありました。築地町の建設時期は明確ではありませんが、初代藩主戸田氏の時代には町割りと排水溝が、次の青山氏の時代になると本格的な建設が行われています。中国街道の東部は当時神崎の渡しから南下し、大物町・市場町を経る道筋と、大阪の佃島から辰巳町・別所町に至る道筋に分かれていました。築城が始まると、本丸の南に街道が通っていたので、廃止され、城の東側から大黒橋を経て築地町の北に入り、この戎橋を経て城の西側へ迂回するコースになりました。

大黒橋・戎橋は共に商家の商売繁栄を願う二神から名称され、特に築地の南浜には浜戎社を勧請し、現在も初嶋大神宮として信仰厚く祭られています。

葭島は東西四筋、南北六筋の街路で碁盤型に区切られており、一番北が浜筋(木屋筋)、その南が本町筋(往還筋)、さらに南には南中筋、大浜筋になっています。



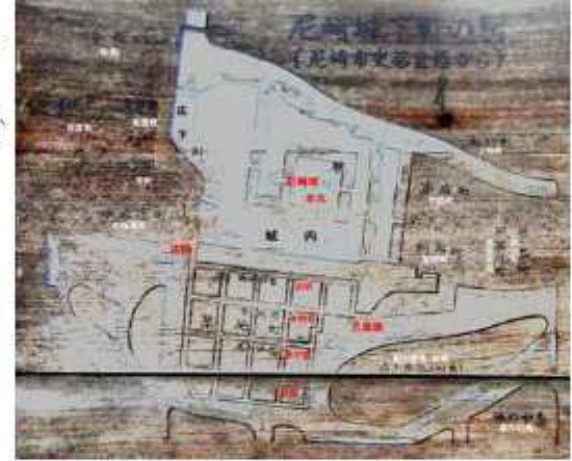
築地本通を山あわせに向かう だんじり

いよいよ「築地 だんじり 祭」の「本祭」が始まり、築地の街も最高潮



大黒橋・秋橋は共に商家の商売繁栄を願う二神から名称され、特に築地の南浜には浜戎社を勧請し、現在も初鰯大神宮として信仰厚く祭られています。

炭島は東西四筋、南北六筋の街路で碁盤型に区切られており、一番北が浜筋(木屋筋)、その南が本町筋(往還筋)、さらに南には南中筋、大浜筋になっています。



いよいよ築地本通も賑わいを見せ始め、街角には「山あわせ」に出陣する地車が出番を待つ





そろそろ街中にもぎやかになってきました
本通を歩いていて、築地だんじり祭りを誘ってくれた友達に出会って、
「 ええところへ来た 大神宮でお払い受けてから、一杯やって
それから「山あわせ」に」と ご馳走になった





社殿に登って 御祓いを受けるのは 何十年ぶりか 巫女さんが剣を持って舞い、
頭にかざしてもらった鈴が「チリチリ」と鳴って 邪気を祓ってくれる
子供の頃といつしょだなあ・・・と



街には「山あわせ」に向かう地車まのだんじり囃子の音が響き渡り、にぎわってきた
築地 本町通で2013.9.16.



陽も落ちて 夕闇が迫る
街に だんじり 囃子が響き渡り
各町内の地車が 築地本通に
集まってきて、行ったりきたり。
本通りは人垣ができ、お祭り
ムードで溢れかえる

ひとしきり本通りを練った
だんじりは「山あわせ」場へ

いよいよ だんじり 祭の
クライマックス「山あわせ」















だんじり 囃子を聞きながら、友人宅で 一杯よばれて

19時を過ぎて「山あわせ」も進んでいるだろうと「山あわせ場」へ向かう

山あわせ場は人波でびっしり

だんじり囃子が鳴り響き、向き合う地車の対戦が行われていました

心浮き浮きで見やすい場所を探す

2013年 築地 だんじり 祭「山あわせ」



だんじり 囃子が鳴り響く中、2台の地車が互いに前方部を傾け、
肩背棒どうしを山形に組み合って押し合う。
そしてうまく 肩背棒を相手の肩背棒の上に寄せ、
相手の地車を制してしまうと勝負がつく。





広場では「山あわせ」がもう始まっていて、見物の人でぎっしり。
軽快な だんじり 囃子に載せて、地車と地車がぶつかり合う熱戦が続く 「見
たかったのは これや」と。童心に返って楽しみました



























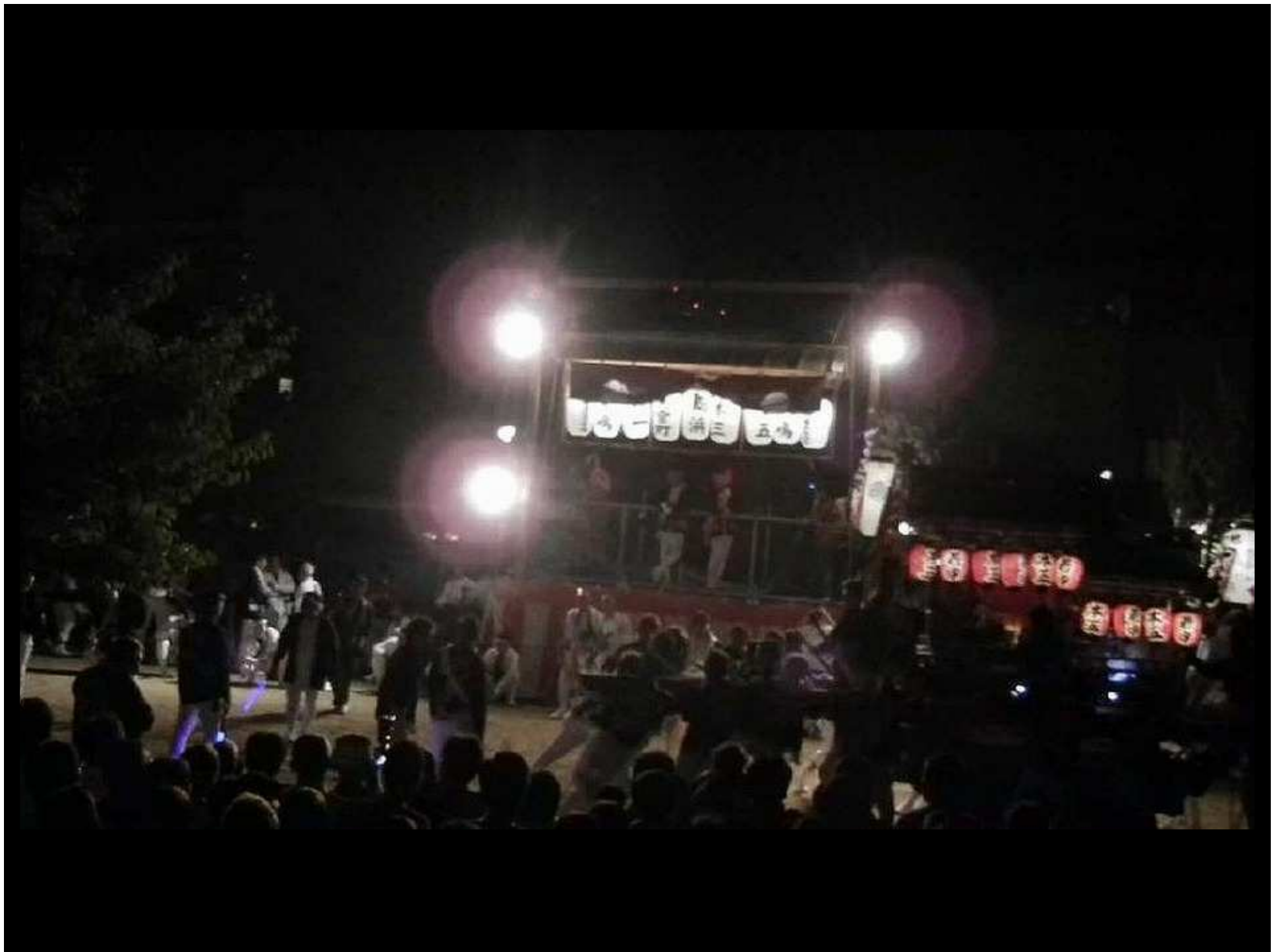




















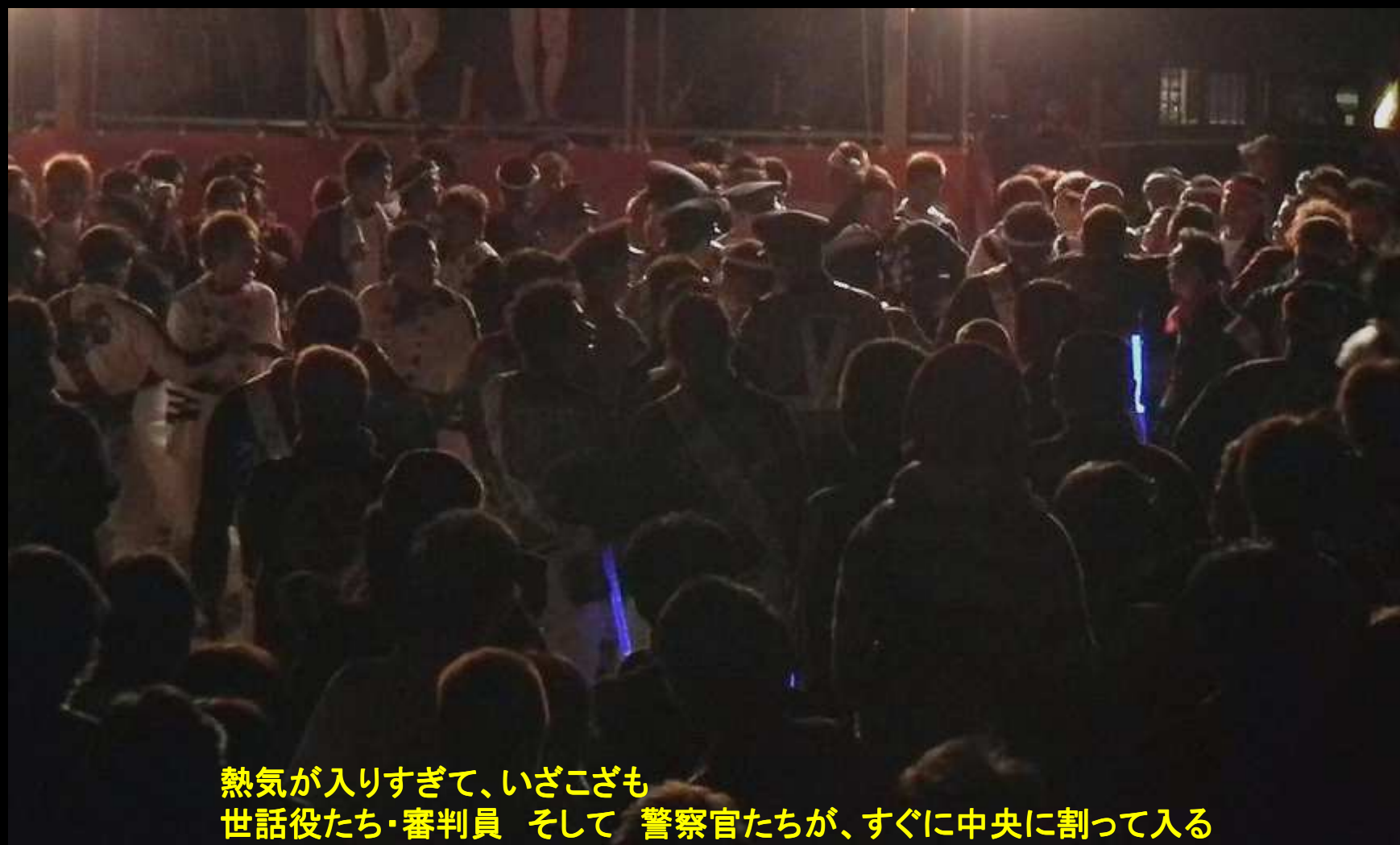












熱気が入りすぎて、いざこざも
世話役たち・審判員 そして 警察官たちが、すぐに中央に割って入る
ルール規制の中でこの山あわせが行われていることが、よくわかる



手締めで締めて また 山あわせが再開



























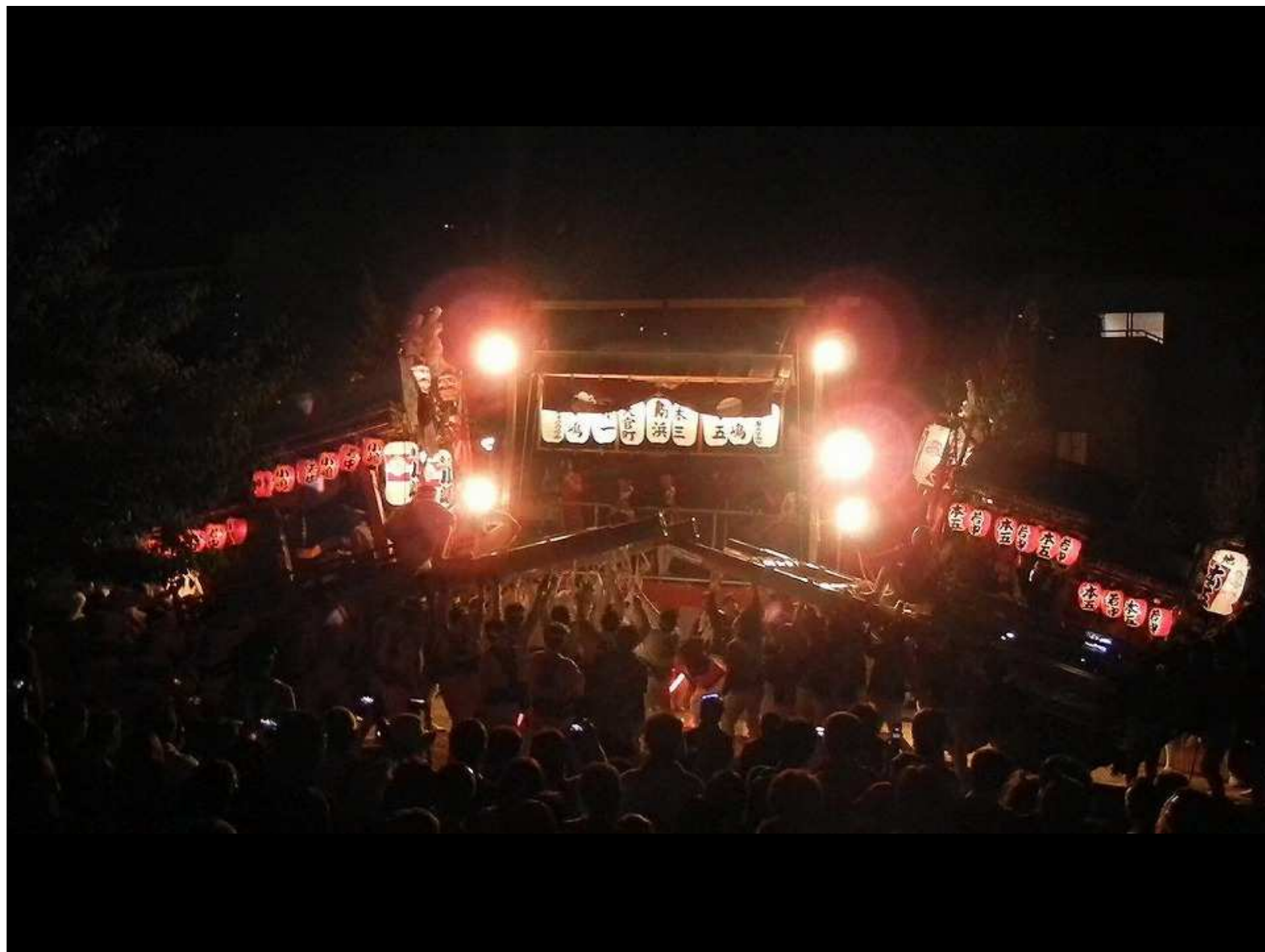
















































9時を回って 興奮冷めやらぬ中で「山あわせ」の全プログラムが終了



「山あわせ」が終わって みんな満足感一杯の顔
2013年山あわせを閉める尼崎の手締めで山あわせが終了
地車はそれぞれ 築地の街中へ繰り出して行って 祭りのフィナーレを楽しむ



築地 だんじり 祭 フィナーレ 築地本通りで
だんじり 囃子が街に鳴り響き、繰り出した人たちと だんじり が一体になって
祭の余韻を楽しむ



























築地初島大神宮 だんじり祭 2013年9月16日夜

わがふるさと尼崎の2013年築地 だんじり 祭
誰がなんと言おうと 子供の頃を思い出しの 血が騒ぐ祭でした
興奮で いまだに だんじり 囃子のリズムが耳についています



【参考 和鉄の道 Country walk】

1. かつては「尼の喧嘩祭」として有名な尼崎貴布禰神社夏祭り〔宵宮〕
50数年ぶり だんじりと暴れ太鼓の宮入

<http://www.infokkna.com/ironroad/dock/walk/12walk15.pdf>

2. 工都尼崎を支える「尼崎港 閘門(尼崎)ロック」walk

<http://www.infokkna.com/ironroad/2009htm/2009walk/9walk01.pdf>